

から成っており、結節も有する多彩な像を示す。これが Dysembryoplastic Origin と考える根拠となっている。治療は外科的摘出のみでよく、放射線療法や化学療法は行わなくても再発しない。

## II. 特 別 講 演

### 「MR 時代のでんかん外科」

島根医科大学脳神経外科教授  
森 竹 浩 三 先生

## 第 3 回新潟 ESWL-Endourology 研究会

日 時 平成 4 年 7 月 4 日 (土)  
午後 4 時  
会 場 ホテルイタリア軒

### I. 一 般 演 題

#### 1) 腹腔鏡的リンパ節切除 —技術面からの検討—

大沢 哲雄・中村 章 (新潟市民病院)  
高橋 英祐 (泌尿器科)

腹腔鏡的リンパ節切除を 7 例に経験した。この手術の臨床的意義に関しては、別に報告したので、今回は、この手術手技の技術面からの検討を行った。前立腺癌 2 例、膀胱癌 5 例の計 7 例に本法を行い、手術時間は、平均 3 時間 24 分であった。本法から、前立腺全摘または膀胱全摘までの期間は、6 日から 19 日で、平均 10 日であった。腹腔鏡手術の術者は、開腹手術の場合に比べ、強い緊張と集中力を要求された。その理由は、① 術者 1 人で全ての問題を解決しなければならない、② 開腹に踏み切るべきか否か、常に決断を迫られている、などである。術後 1～2 週間での開腹手術は、特に問題なく行えた。本法は、原則としては、リンパ節陰性の確認をして、根治手術を行うための one step とすべきで、画像診断でのリンパ節転移陽性を再確認する手段ではないと考えている。

#### 2) 当科における腹腔鏡手術について (黎明期)

西山 勉・照沼 正博 (厚生連中央総合  
病院泌尿器科)

泌尿器科領域で腹腔鏡手術が行われるようになってきたが、その適応はおもに骨盤内リンパ節郭清術で、基本的手術手技の検討が行われている段階である。現在までに当科で行った腹腔鏡手術の対象症例は男性 8 例、女性 1 例、年齢は 25 才～76 才であった。手術内容は骨盤内リンパ節郭清術 6 例、精索静脈瘤根治術 1 例、腎摘出術 1 例、副腎摘出術 1 例である。その対象疾患は前立腺癌 5 例、女子尿道癌鼠径リンパ節再発 1 例、精索静脈瘤 1 例、左無機能腎 1 例、左内分泌非活性副腎腫瘍 1 例である。手術時間の最短は精索静脈瘤の 1 時間 30 分で、最長は左腎摘出術の 5 時間 32 分であった。腹腔鏡的左腎摘出術の術式を中心に我々の経験を報告した。

#### 3) ドルニエ社製 MFL-5000 によるサンゴ状腎結石の治療経験

中村 章・大沢 哲雄 (新潟市民病院)  
高橋 英祐 (泌尿器科)

ドルニエ社製 MFL-5000 を紹介し、本装置によるサンゴ状腎結石に対する単独療法の結果を報告した。1991 年 11 月より 1992 年 6 月までにサンゴ状腎結石 11 例に対し、硬膜外麻酔下で、治療回数 1 ないし 3 回で衝撃波数 3050 ないし 9000 を与えた。結石の破碎率は 100% であり、現在 3 例で結石除去に成功した。今後治療を重ねることにより、単独療法で十分満足すべき除去成功率を収めうる可能性が示唆された。軽い皮下出血と血尿が全例に認められた。1 例で発熱がみられ、1 例の単腎者 (除去成功例) で血清クレアチニンの一過性上昇を認めた。

#### 4) 軟性腎盂尿管鏡を用いた経尿道的上部尿路結石砕石術

郷 秀人・高橋 等 (新潟大学泌尿器科)

1988 年 2 月より 1991 年 12 月にかけて当院ならびに関連病院で、上部尿路結石患者 91 例 (男性 65 例、女性 26 例、平均年齢 45.5 才) に対し軟性腎盂尿管鏡 (オリンパス社製 URF-P) と電気水圧衝撃波を用いて計 95 回の経尿道的砕石術を行った。79 例 (83.2%) に治療直後砕石効果が認められた。治療 1 ヶ月後で 63 例 (66.3%)、3 ヶ月後で 68 例 (71.6%) で残石を認めなかった。尿管の狭窄や屈曲のため 7 例で結石に到達できず、4 例で尿